

卒業論文の作成・提出にあたって留意すべき点を以下にまとめた。史学科全体に共通する事項なので、各自熟読しておくこと。その他の個別の点については所属するゼミの教員の指示に従うこと。

【題目提出】

- 1、2025 年度の提出締め切りは 6 月 27 日(金)、提出締切時刻は 16 時 30 分(厳守)、提出先は学生支援センター教務担当にオンライン提出(詳細は別途通知)。
- 2、指導教員の承認がなければ受付できない。指導教員からオンライン提出情報を受け取り、教員と相談の上、題目提出以降は、題目の変更は原則として認められないので、提出までに十分に教員の指導を受けること。
- 3、提出期間が教育実習・博物館実習にあたっており、早めに提出する必要がある場合は、事前に指導教員と題目を確定し、提出方法を確認すること。また、提出期間中に病気・事故・忌引などのやむを得ない事情によって提出できなくなった場合、その時点で指導教員および学生支援センター教務担当窓口に連絡し、指示を受けること。事後の申し出は認められないので注意すること。

【卒論の体裁】

- 1、市販の B5 判コピー用紙を使用する。表紙と目次を必ず付けて、B5 判フラットファイル(緑色)に綴じる。
縦書きか横書きかについては、指導教員の指示に従うこと。
- 2、原稿枚数は、縦書きの場合は本文 40 字 × 10 行で 31 枚以上・50 枚以下、横書きの場合は本文 30 字 × 15 行で 28 枚以上・45 枚以下。なお、本文に、表紙・目次・注・参考史料・文献一覧・図表等は含めない。
- 3、論文の体裁には十分に注意を払うこと。
 - ・記載法を統一し、適当な位置での改行に注意すること。400 字の原稿 1 頁につき、1~3 か所程度の改行が読みやすい。
 - ・注の付け方とその位置などについては、先行研究の論文・図書の体裁を参考にすること。参考文献を注で示すときは、著者名、図書・論文名、論文の掲載誌名・巻数・号数、出版元、発行年、参照した箇所(章節、頁数など)を記載すること。
 - ・誤字・脱字のないように努めること。
- 4、上記以外に指導教員から個別の指示があれば、その指示に従うこと。また、内容・書き方・体裁などについて分からないう�あれば、自分から積極的に相談すること。

【卒論の提出】

- 1、提出期間は 2025 年 12 月 15 日(月)～17 日(水)、いずれも提出締切時刻は 16 時 30 分、提出先は学生支援センター教務担当窓口。
締切時刻は厳守し、1 秒たりとも遅れないこと。不備・誤りがないかを入念にチェックした上で、できるだけ期間初日に提出できるように努めること。
- 2、提出に先立って、コピー(控え)1 部を作成・保管し、口頭試問時に持参すること。
- 3、提出期間最終日に至ってもまだ提出できていない場合、完成後すぐに窓口に持参できるよう、とにかく大学に来て共同研究室などで作業した方がよい。
- 4、近年、提出直前になっての原稿データの消失、共同研究室や情報処理センターでのプリンターの不具

合などのトラブルが増加しているが、いずれも提出遅延の理由にはならない。また、締切時刻までに印刷が間に合わないからといって、USBなどの電子媒体で提出することは一切認められていない。

5、提出期間までに論文は完成していながら、登校時の事故など不測の事態により、締切時刻までの窓口への到着が難しそうな場合、必ず締切時刻以前に学生支援センター教務担当に電話で連絡し、事情を説明しておくこと。ただし、受理の可否は保証されない。

【 卒論口頭試問 】

1、口頭試問は 2026 年 1 月 27 日(火)～2 月 5 日(木)の間におこなう予定。各自の試問日時は卒論提出期間後の数日内に掲示・通知される。試問日時は個人の都合による変更ができないため、試問日時が公示されるまで上記試問期間の予定(土曜・日曜・祝日も含む)はすべて空けておくこと。

2、試問にあたっては、作成・保管していた卒論のコピー(控え)を持参すること。

3、試問の進行状況により、開始時刻が予定より若干前後する可能性がある。よって、開始 15 分前には指定された場所で待機すること。

4、口頭試問は原則対面でおこなうが、感染症の流行や自然災害など、学科が認めた特別な状況下ではオンラインでおこなうこともあります。ただし、個人的な事情で対面をオンラインに切り換えることはできない。

厳 重 注 意 ! 【 史学科の全教員から強調しておきたいこと 】

以下のような場合、たとえ教務担当窓口でいったん提出が受理されたとしても、史学科として卒業単位を認めることはできない。「とにかく所定の分量の文章を用意すれば卒業できる」といった考えは改めること。

- ①論文提出に際しての締切時刻の超過。
- ②口頭試問への遅刻・欠席。
- ③論文の体裁上の著しい不備:所定の枚数・字数に満たない、論拠がまったく示されない、など。
- ④論文の内容上の著しい不備:論文としての論旨をなさない、引用が分量の過半を占める、など。
- ⑤文章の盗用、ならびに文章生成 AI の使用(他人の著作、Wikipedia、ChatGPT など)。

このうち①②は、たとえどのような理由があろうとも、ほぼ無条件に不合格とする。③～⑤については学科全体の審議によって判断されるので、個別の教員への請願は無意味である。とくに、⑤については、本人の認否にかかわらず、口頭試問での応答、および複数の教員による調査に基づいて学科として判断し、厳正に対処する。卒論提出予定者は、以上の点に留意し、心して論文作成に取りくんでほしい。